

4-3. 自然環境

4-3-1. 気象

交野市及び四條畷市の気候は、西部市街地は降水量が少なく、温暖な瀬戸内海式気候に属し、東部丘陵地は気温が西部地域に比べて低く、雨が多い山麓型の気候となっている。

事業計画地周辺の気象観測結果は、表4-3.1に示すとおりである。事業計画地から最寄りの観測所である枚方地域気象観測所（枚方アメダス）の平均気温はおよそ16℃と温暖であり、降水量は年間約1,100～1,600mm程度で全国的に見ても少ない方である。また、生駒山地域気象観測所（生駒山アメダス）では、枚方地域気象観測所と比較して気温が低い。

事業計画地周辺の風配図は、図4-3.1に示すとおりである。事業計画地の風向は、西～北北西及び東～南南東の頻度が多くなっている。

表4-3.1 事業計画地周辺の気象観測結果

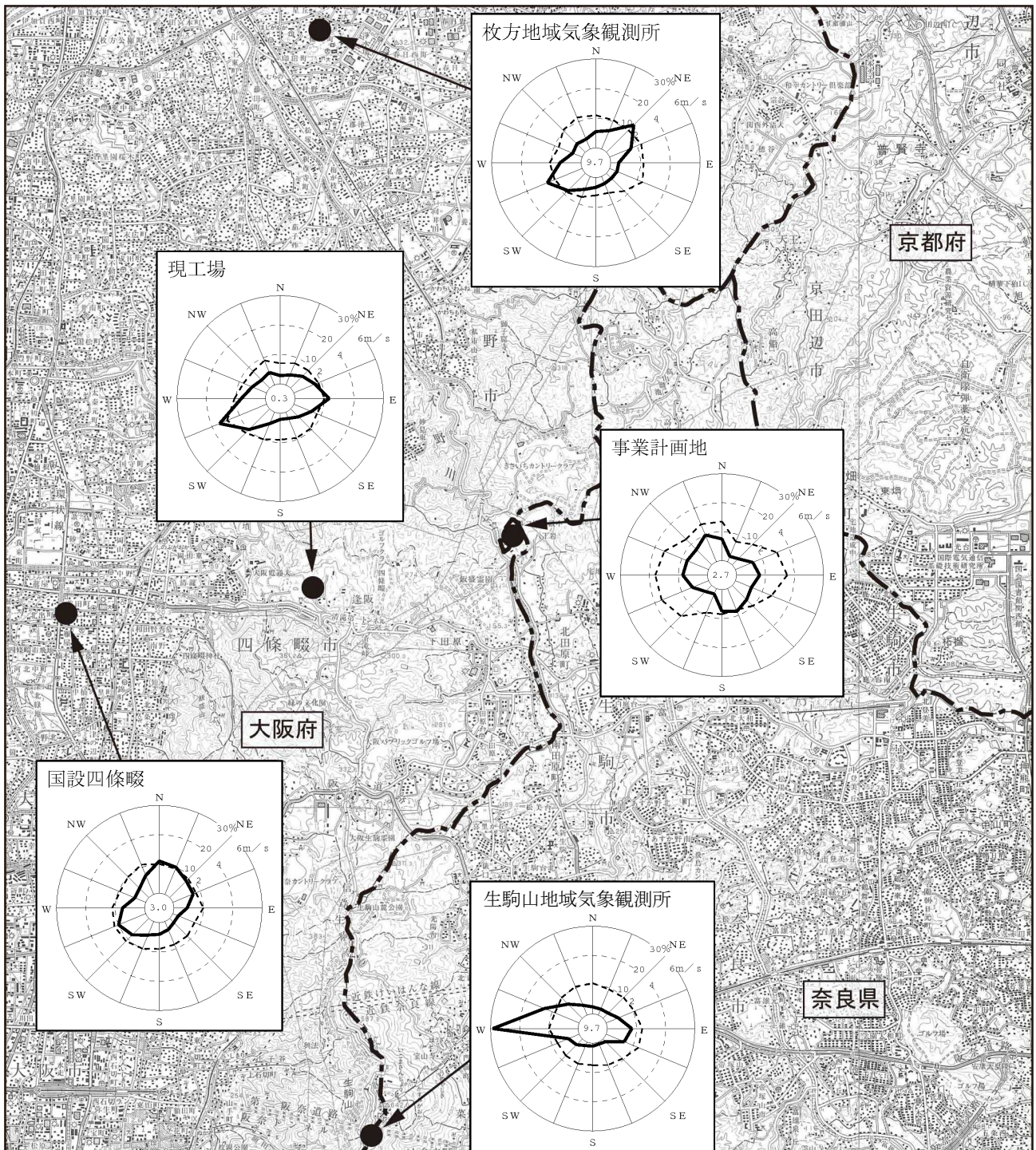
[枚方地域気象観測所] 標高26m

年	降水量 (mm)	気温 (°C)			平均風速 (m/s)
		平均	最高	最低	
平成19年	1,141.0	16.5	38.5	-1.1	1.5
平成20年	1,376.0	16.0	36.1	-2.1	1.4
平成21年	1,262.0	16.3	36.5	-1.9	1.5
平成22年	1,639.5	16.6	37.6	-2.6	1.8
平成23年	1,517.5	16.1	37.2	-3.7	1.8
平均	1,387.2	16.3	37.2	-2.3	1.6

[生駒山地域気象観測所] 標高626m

年	降水量 (mm)	気温 (°C)			平均風速 (m/s)
		平均	最高	最低	
平成19年	1,272.0	12.3	32.5	-3.9	2.8
平成20年	1,499.0	11.9	30.8	-6.7	2.7
平成21年	1,536.5	12.3	30.9	-5.3	2.7
平成22年	1,773.0	12.4	32.3	-6.6	2.8
平成23年	1,841.0	12.0	31.5	-8.1	2.7
平均	1,584.3	12.2	31.6	-6.1	2.7

出典：「気象統計情報」（気象庁ホームページ）より作成



凡 例 事業計画地 府県境

注1) 風配図の実線は風向頻度(%)、破線は風向別平均風速(m/s)、円内の数字は静穏(風速0.4m/s以下)率である。
 注2)

地点名	観測機関	観測年度等
事業計画地	四條畷市交野市清掃施設組合	昭和59～60年の1年間
現工場	四條畷市交野市清掃施設組合	平成22年度
枚方地域気象観測所	気象庁	平成22年度
生駒山地域気象観測所	気象庁	平成22年度
国設四條畷	環境省(大気汚染常時監視局データ)	平成22年度



1:80,000

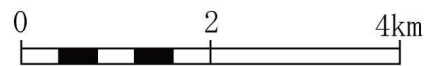


図4-3.1 事業計画地周辺の風配図

4-3-2. 地象

(1) 地形

事業計画地周辺の地形分類は、図4-3.2に示すとおりである。

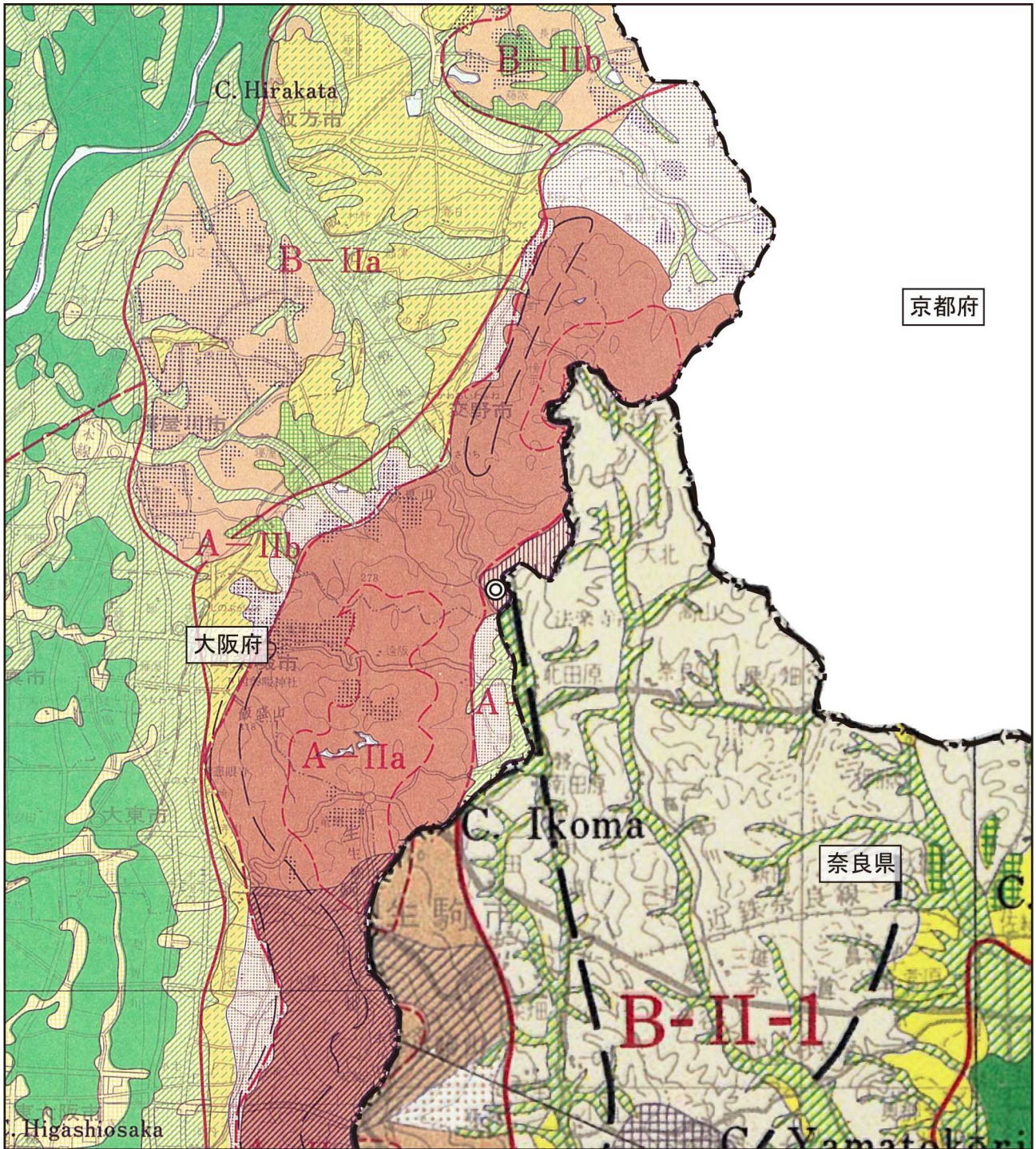
「土地分類図（大阪府）」（昭和51年、国土庁）によると、事業計画地は大起伏丘陵地となっている。また、周辺の主な地形は小起伏山地となっている。

また、「日本の地形レッドデータブック 第1集 新装版」（平成12年、古今書院）によると、事業計画地周辺における保護上重要な地形は確認されていない。

(2) 地質

事業計画地周辺の表層地質は、図4-3.3に示すとおりである。

事業計画地は花崗岩質岩石となっている。また、周辺の地質は、主に花崗岩質岩石及び礫、砂、泥からなっている。



凡例 ◎ 事業計画地

<大阪府>

- 中起伏山地
- 小起伏山地
- 山麓地Ⅰ
- 山麓地Ⅱ
- 大起伏丘陵地
- 小起伏丘陵地

- 段丘（高位）
- 段丘（中・低位）
- 扇状地性低地
- 三角州性低地
- 自然堤防・砂洲

<奈良県>

- 中起伏山地
- 小起伏山地
- 山麓地
- 大起伏丘陵地
- 小起伏丘陵地
- 砂礫台地（上位）
- 砂礫台地（下位）
- 扇状地性低地
- 三角州性低地

出典：「土地分類図（大阪府）」（昭和51年、国土庁）
 「土地分類図（奈良県）」（昭和48年、経済企画庁）



1:100,000

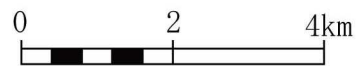


図4-3.2 地形分類図

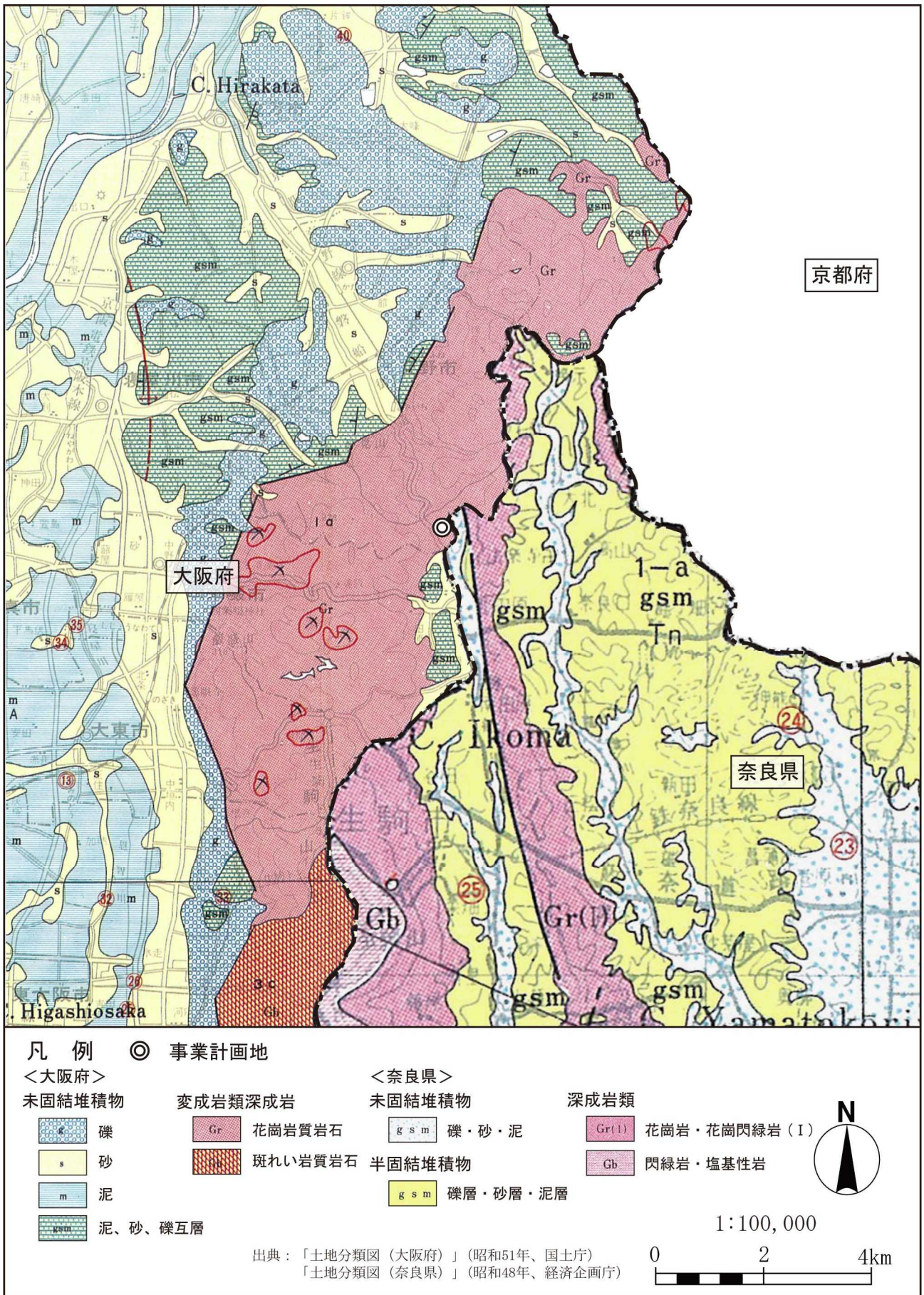


図4-3.3 表層地質図

4-3-3. 水象

(1) 河川

事業計画地周辺における主な河川は、図4-3.4に示すとおりであり、事業計画地の横を流れる天野川は、淀川に流れる一級河川であり、延長は14,896mである。

事業計画地のそばである「磐船神社」付近は、1997年（平成9年）にバイパス工事を行い、河川水をトンネルの中に流している。

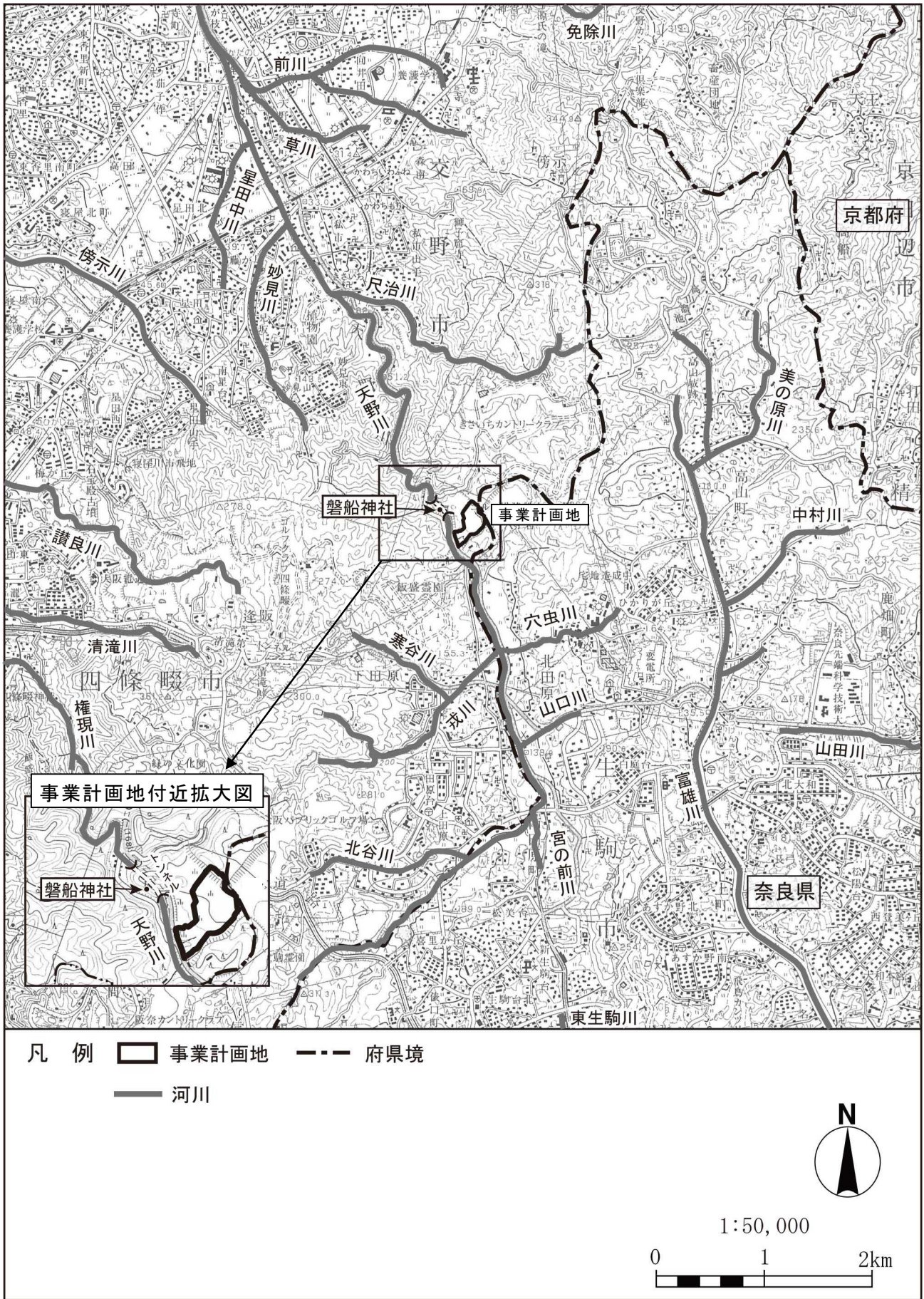


図4-3.4 主な河川

4-3-4. 生態系

(1) 陸生動物

1) 動物相の概要

交野市及び四條畷市を含む大阪府北河内地域及び奈良県生駒市に生息する陸生動物の状況は以下のとおりである。

哺乳類については、人里にも現れるノウサギ、ニホンイノシシ、タヌキ、カヤネズミ等の他、森林性のテン、ニホンリス、ヤマネが確認されている。

鳥類については、市街地にも生息するスズメ及びムクドリ等、水辺を好むチュウサギやゴイサギ等のサギ類、ハマシギ等のシギ類、草地を好むセッカ及びツリスガラ、猛禽類のハチクマ、オオタカ、ツミ及びチュウヒ等、多様な鳥類が確認されている。

爬虫類については、クサガメ、イシガメ、トカゲ、カナヘビ、シマヘビ等が確認されている。

両生類については、里山的環境に生息するカスミサンショウウオ及びイモリ、河川の上中流域に生息するオオサンショウウオのほか、アマガエル、ニホンアカガエル、トノサマガエル等のカエル類が確認されている。

昆虫類については、「第2回自然環境保全基礎調査 動植物分布図 大阪府、奈良県」（昭和56年、環境庁）によると、指標昆虫類のハッチョウトンボ、ハルゼミ及びオオムラサキ等、特定昆虫類のハネビロエゾトンボ、ヨツボシトンボ、トホシカメムシ等が確認されている。このほか、シオカラトンボ及びマユタテアカネ等のトンボ類、キアゲハ、コツバメ及びイチモンジセセリ等のチョウ類、クツワムシ及びクルマバッタ等のバッタ類、ゲンゴロウ、ゲンジボタル及びヤマトタマムシ等のコウチュウ類等が確認されている。

以上のとおり、北河内地域及び生駒市には、生駒山地、山麓の里山、住宅地、河川及び池沼など多様な生息環境を反映した動物相が存在している。

出典：「第2回自然環境保全基礎調査 動植物分布図 大阪府、奈良県」（昭和56年、環境庁）
「大阪府野生生物目録」（平成12年、大阪府）
「大阪府における保護上重要な野生生物」（平成12年、大阪府）
「大切にしたい奈良県の野生動植物 脊椎動物編」（平成18年、奈良県）
「大切にしたい奈良県の野生動植物 植物・昆虫類編」（平成20年、奈良県）
「生物多様性情報システム 自然環境保全基礎調査」（環境省ホームページ）
「平成19・20年度 生駒市自然環境調査報告書」（平成21年、生駒市）

(2) 陸生植物

1) 植生及び植物相の概要

事業計画地周辺の現存植生の状況は、図4-3.5に示すとおりである。

事業計画地は土砂採取場の跡地であり、北側にはゴルフ場が隣接している。事業計画地周囲の丘陵地では、自然植生が残された場所はごく一部であり、広く代償植生のアベマキ・コナラ群集やモチツツジ・アカマツ群集となっているほか、造成地もみられる。平地は水田雑草群落、市街地及び住宅地が主体であるが、パッチ状に竹林が分布している。

「第2回自然環境保全基礎調査 植生調査報告書 大阪府」（昭和54年、大阪府）によると、交野市妙見坂のモチツツジ・アカマツ群集において、高木層ではアカマツ、カスミザクラ、ヤマザクラ、ソヨゴ及びコナラ、低木層ではコバノミツバツツジ、モチツツジ、ナツハゼ、ヤブツバキ等、草本層ではコシダ、ヘクソカズラ、チヂミザサ等が確認されている。

「交野市史」（昭和61年、交野市）によると、事業計画地近傍の磐船峡の植物相として、ツル植物のツルニンジン、ガガイモ、ナツフジ、アケビ等、落葉広葉樹林の林床に生育するエビネ及びギンラン、シダ植物のフユノハナワラビ、ヘラシダ、ホラシノブ、トラノオシダ等、木本類はネムノキ、タカノツメ、ゴンズイ等が確認されている。

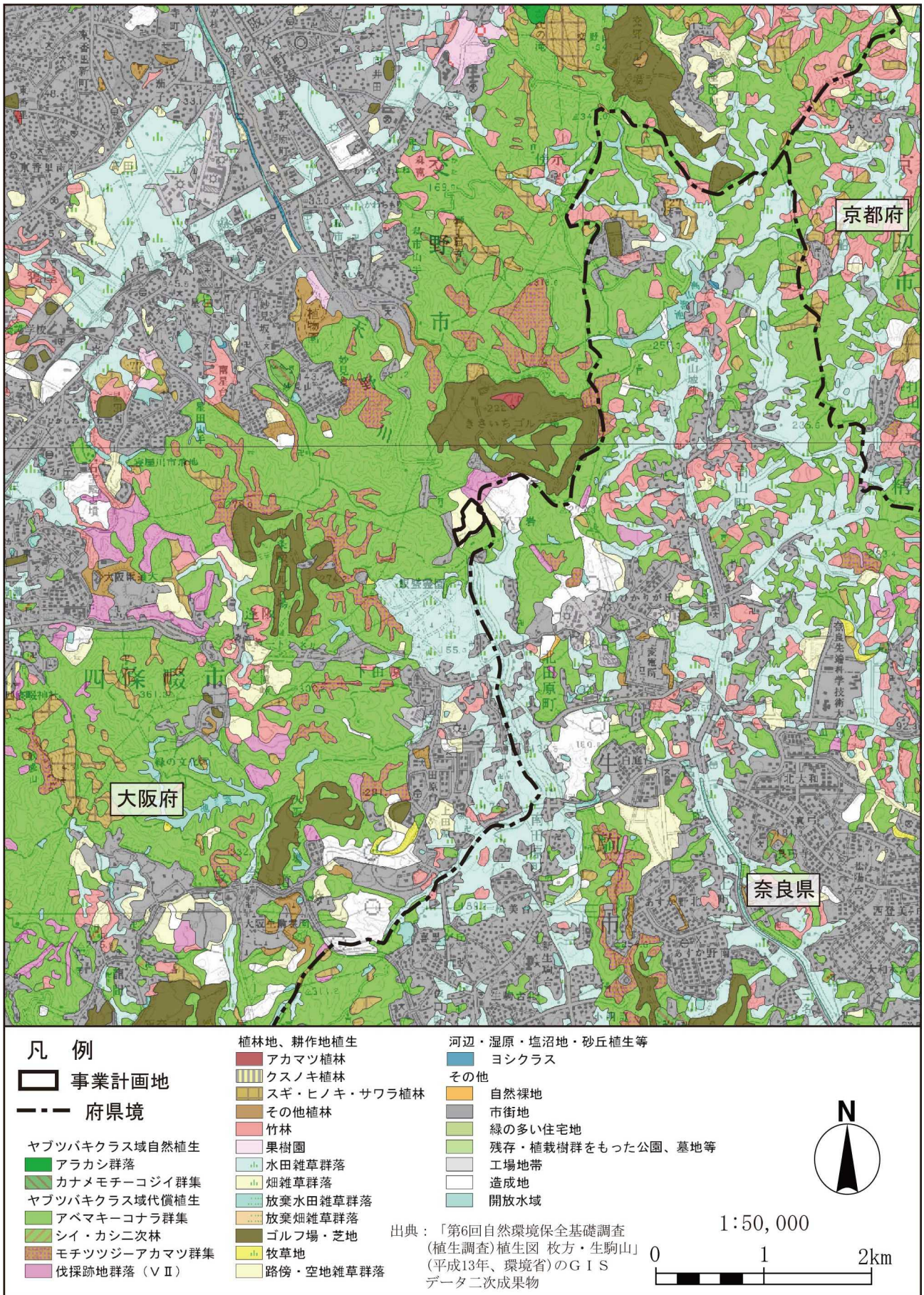


図4-3.5 現存植生の状況

(3) 水生生物

交野市、四條畷市及び奈良県生駒市に生息する水生生物の状況は以下のとおりである。

魚類については、オイカワ、カマツカ、カワムツ、ヌマムツ、ギンブナ、コイ、シロヒレタビラ、メダカ、カワヨシノボリ、トウヨシノボリ、ナマズ等が確認されている。

甲殻類については、ミズムシ、サワガニ、ミナミヌマエビ、スジエビが確認されている。

淡水貝類については、ヒメタニシ、カワニナ、ハブタエモノアラガイ等が確認されている。

水生昆虫類については、カワゲラ類、トンボ類の幼虫、ガガンボ類の幼虫及びユスリカ類の幼虫等が確認されている。

出典：「大切にしたい奈良県の野生動植物 脊椎動物編」（平成18年、奈良県）
「交野の環境 平成21年版」（平成22年、交野市）
「生物多様性情報システム 自然環境保全基礎調査」（環境省ホームページ）
「平成19・20年度 生駒市自然環境調査報告書」（平成21年、生駒市）

(4) 注目すべき種

文献による種の確認状況は、表4-3.2～に示すとおりである。

事業計画地が含まれる大阪府の北河内地域においては、「大阪府における保護上重要な野生生物」（平成12年、大阪府）によると、絶滅は、昆虫類のシャープゲンゴロウモドキ及びシダ植物のアカウキクサ等8種、絶滅危惧Ⅰ類は、鳥類のクマタカ、両生類のダルマガエル及びシダ植物のミズニラ等34種、絶滅危惧Ⅱ類は、鳥類のヨシゴイ、両生類のオオサンショウウオ、シダ植物のミズワラビ及び双子葉植物のホソバイスタデ等57種、準絶滅危惧は、哺乳類のキツネ、鳥類のササゴイ、昆虫類のベニイトトンボ、双子葉植物のナガバノウナギツカミ及び単子葉植物のミズオオバコ等88種、情報不足は、鳥類のカッコウ及び双子葉植物のコブシ等15種、要注目は、哺乳類のニホンリス及び単子葉植物のコガマ等32種となっている。

事業計画地に隣接する奈良県生駒市においては、「大切にしたい奈良県の野生動植物 脊椎動物編」（平成18年、奈良県）及び「大切にしたい奈良県の野生動植物 植物・昆虫類編」（平成20年、奈良県）によると、絶滅寸前種は、魚類のシロヒレタビラ及びシダ植物のミズニラ等9種、絶滅危惧種は鳥類のミゾゴイ、爬虫類のニホンイシガメ、双子葉植物のサクラバハノキ等41種、希少種は、哺乳類のカヤネズミ及びヤマネ、魚類のヌマムツ及びメダカ、シダ植物のミズスギ、双子葉植物のシロバナウンゼンツツジ、単子葉植物のミズギボウシ等76種、情報不足種は、鳥類のチュウサギ及び昆虫類のハタケノウマオイの2種、注目種は、鳥類のゴイサギ及びオシドリ、昆虫類のムネアカセンチコガネの3種、郷土種は、鳥類のイカル及び昆虫類のヤマトタマムシの2種となっている。

表4-3.2(1) 大阪府北河内地域における注目すべき種

カテゴリー	分類		種数	和名	
絶滅	動物	昆虫類	1	シャープゲンゴロウモドキ	
		シダ類	1	アカウキクサ	
	植物	双子葉植物離弁花類	2	オグラコウホネ、アサザ	
		双子葉植物合弁花類	1	ミズトラノオ	
絶滅危惧Ⅰ類	動物	鳥類	1	クマタカ	
		両生類	1	ダルマガエル	
		昆虫類	5	キイロヤマトンボ、コバンムシ、ゲンゴロウ、ツマグロキチョウ、クロシジミ	
	植物	シダ類	3	ミズニラ、デンジソウ、サンショウモ	
		双子葉植物離弁花類	6	ヤナギヌカボ、オキナグサ、ヒキノカサ、イカリソウ、コバナワレモコウ、タチモ	
		双子葉植物合弁花類	6	クサレダマ、コケリンドウ、タヌキモ、ヒメタヌキモ、ムラサキミミカキグサ、アキノハハコグサ	
		単子葉類	12	アギナシ、マルミスブタ、スブタ、トチカガミ、ミズアオイ、ホシクサ、コゴメカゼクサ、ヒメミクリ、ウマスゲ、シラン、ムギラン、ジガバチソウ	
	絶滅危惧Ⅱ類	動物	鳥類	22	ヨシゴイ、ハチクマ、オオタカ、ツミ、コチョウゲンボウ、クイナ、ヒクイナ、タマシギ、コチドリ、イカルチドリ、シロチドリ、ツバメチドリ、コアジサシ、トラフズク、コミミズク、アオバズク、フクロウ、ヨタカ、サンショウクイ、ミソサザイ、トラツグミ、クロツグミ
			両生類	2	オオサンショウウオ、カスミサンショウウオ
			昆虫類	10	アオハダトンボ、オオサカサナエ、ナゴヤサナエ、ネアカヨシヤンマ、アオヤンマ、マルタンヤンマ、エサキアメンボ、タガメ、チビアオゴミムシ、ウラナミアカシジミ
植物		シダ類	2	ミズワラビ、オオアカウキクサ	
		双子葉植物離弁花類	6	ホソバイスタデ、ヌカボタデ、カワラケツメイ、ツルフジバカマ、ノウルシ、ドクゼリ	
		双子葉植物合弁花類	8	クロミノニシゴリ、イヌセンブリ、スズサイコ、コバナカモメヅル、ジュウニヒトエ、ナツノタムラソウ、オオマルバノホロシ、サワシロギク	
		単子葉類	7	ヤナギスブタ、ミズギボウシ、ミノボロ、マツカサススキ、フトイ、サギソウ、ミズトンボ	
準絶滅危惧		動物	哺乳類	1	キツネ
			鳥類	47	ササゴイ、ツクシガモ、トモエガモ、サンバ、チョウゲンボウ、ヤマドリ、メダイチドリ、ムナグロ、ダイゼン、タゲリ、トウネン、オジロトウネン、ウズラシギ、ハマシギ、ミユビシギ、ツルシギ、コアオアシシギ、アオアシシギ、クサシギ、タカブシギ、キアシシギ、イツシギ、ソリハシシギ、オグロシギ、チュウシャクシギ、ヤマシギ、タシギ、チュウジシギ、オオジシギ、ツツドリ、ホトトギス、カワセミ、アリスイ、アオゲラ、オオヨシキリ、センダイムシクイ、セッカ、キビタキ、オオルリ、サンコウチョウ、ツリスガラ、ホオアカ、クロジ、オオマシコ、ニューナイイスズメ、コクマルガラス、ミヤマガラス
		植物	昆虫類	24	ベニイトトンボ、コバネアオイトトンボ、ムカシヤンマ、キイロサナエ、ホンサナエ、アオサナエ、オオルリボシヤンマ、サラサヤンマ、ハッチョウトンボ、ナニワトンボ、ネキトンボ、カヤキリ、ヤスマツアメンボ、オオコオイムシ、セアカオサムシ、ツシマヒラタシデムシ、ヒゲコガネ、オオサカスジコガネ、ヒメボタル、ジュウクホシテントウ、クロスジチャイロテントウ、ミドリシジミ、オオウラギンスジヒョウモン、オオムラサキ
	双子葉植物離弁花類		9	ナガバノウナギツカミ、サデクサ、ヤナギイノコズチ、コウホネ、ハンゲショウ、ホソバウマノスズクサ、ミズオトギリ、モウセンゴケ、タコノアシ	
	双子葉植物合弁花類		3	オオヒキヨモギ、サワギキョウ、キキョウ	
	情報不足	動物	単子葉類	5	ミズオオバコ、ウキシバ、ヤガミスゲ、ミコシガヤ、コマツカサススキ
鳥類			3	カッコウ、オオコノハズク、コサメビタキ	
爬虫類			3	スッポン、シロマダラ、ヒバカリ	
植物		昆虫類	2	ムツボシツヤコツブゲンゴロウ、コセスジゲンゴロウ	
		双子葉植物離弁花類	2	コブシ、コイヌガラシ	
双子葉植物合弁花類	1	ツクバキンモンソウ			
単子葉類	4	オオミズヒキモ、ササパモ、トリゲモ、マツムライヌノヒゲ			

表4-3.2(2) 大阪府北河内地域における注目すべき種

カテゴリー	分類	種数	和名	
要注目	哺乳類	1	ニホンリス	
	動物	鳥類	14	カンムリカイツブリ、カワウ、チュウサギ、オシドリ、ミサゴ、ハイタカ、ノスリ、ハヤブサ、ケリ、ダイシャクシギ、アオバト、アカゲラ、コルリ、オオジュリン
		爬虫類	1	イシガメ
		両生類	4	イモリ、ニホンヒキガエル、シュレーゲルアオガエル、カジカガエル
		昆虫類	3	クツワムシ、クルマバッタ、ゲンジボタル
	植物	双子葉植物離弁花類	2	キミズ、ジュンサイ
		双子葉植物合弁花類	3	ミゾコウジュ、カワヂシャ、イヌタヌキモ
		単子葉類	4	コガマ、オオシロガヤツリ、エビネ、ギンラン

注) カテゴリーの定義は以下のとおりである。

絶滅：大阪府ではすでに絶滅したと考えられる種

絶滅危惧Ⅰ類：絶滅の危機に瀕している種

絶滅危惧Ⅱ類：絶滅の危険が増大している種

準絶滅危惧：存続基盤が脆弱な種

情報不足：評価するだけの情報が不足している種

要注目：注目を要する種

出典：「大阪府における保護上重要な野生生物」（平成12年、大阪府）

表4-3.2(3) 奈良県生駒市における注目すべき種

カテゴリー	分類		種数	和名
絶滅寸前種	動物	魚類	1	シロヒレタビラ
		シダ類	1	ミズニラ
	植物	双子葉植物離弁花類	1	ヒメビシ
		双子葉植物合弁花類	4	マルバノイチヤクソウ、ヒメタヌキモ、マツムシソウ、ホソバニガナ
	単子葉類	2	ゲンカイモエギスゲ、マツカサススキ	
絶滅危惧種	動物	鳥類	14	ミゾゴイ、ハチクマ、サシバ、クマタカ、クイナ、ヒクイナ、ジュウイチ、コノハズク、ヨタカ、サンショウクイ、カヤクグリ、ホオアカ、アオジ、クロジ
		爬虫類	1	ニホンイシガメ
		両生類	2	ニホンヒキガエル、ニホンアカガエル
		昆虫類	6	モートンイトトンボ、ハネビロエゾトンボ、ハッチョウトンボ、ナニワトンボ、タンボオカメコオロギ、ウラナミアカシジミ
	植物	双子葉植物離弁花類	5	サクラバハノキ、ジュンサイ、ツメレンゲ、カワラケツメイ、カワラボウフウ
		双子葉植物合弁花類	5	イワナシ、アイナエ、イヌセンブリ、オグルマ、イトトリゲモ
		単子葉類	8	ウンヌケモドキ、ウキシバ、ナガエミクリ、サトヤマハリスゲ、エビネ、カキラン、クロヤツシロラン、ミズトンボ
希少種	動物	哺乳類	2	カヤネズミ、ヤマネ
		鳥類	33	オオタカ、ツミ、ハイタカ、ノスリ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、タマシギ、タゲリ、クサシギ、タカブシギ、イソシギ、ヤマシギ、タシギ、アオバト、ツツドリ、アオバズク、フクロウ、アカゲラ、ビンズイ、カワガラス、コマドリ、ルリビタキ、イソヒヨドリ、トラツグミ、クロツグミ、アカハラ、メボソムシクイ、センダイムシクイ、セッカ、キビタキ、コサメビタキ、サンコウチョウ、ミヤマホオジロ
		爬虫類	3	アオダイショウ、ヤマカガシ、ニホンマムシ
		魚類	2	ヌマムツ、メダカ
		昆虫類	22	ベニイトトンボ、ムカシヤンマ、キイロサナエ、アオサナエ、サラサヤンマ、アオヤンマ、マルタンヤンマ、キイロヤマトンボ、トラフトンボ、ヨツボシトンボ、ミヤマアカネ、ネキトンボ、クツワムシ、ショウリョウバッタモドキ、イトアメンボ、セアカオサムシ、アカシジミ、ミズイロオナガシジミ、オオウラギンスジヒョウモン、メスグロヒョウモン、ウラギンヒョウモン、オオシモフリスズメ
	植物	シダ類	4	ミズスギ、オオフジシダ、ホソバナライシダ、シロヤマシダ
		双子葉植物離弁花類	3	シリブカガシ、ホソバウマノスズクサ、モウセンゴケ
		双子葉植物合弁花類	3	シロバナウンゼンツツジ、スズサイコ、ツクバキンモンソウ
		単子葉類	6	ミズギボウシ、ハタガヤ、オオシロガヤツリ、シロガヤツリ、ムギラン、オオバノトンボソウ
		情報不足種	動物	鳥類
	昆虫類	1	ハタケノウマオイ	
注目種	動物	鳥類	2	ゴイサギ、オシドリ
		昆虫類	1	ムネアカセンチョコガネ
郷土種	動物	鳥類	1	イカル
		昆虫類	1	ヤマトタマムシ

注) カテゴリーの定義は以下のとおりである。

絶滅種：すでに絶滅したと考えられる種

絶滅寸前種：絶滅の危機に瀕している種

絶滅危惧種：絶滅の危険が増大している種

希少種：存続基盤が脆弱な種

情報不足種：評価するだけの情報が不足している種

注目種：上記の区分以外で奈良県において生物多様性の保全上注目される種

郷土種：県民が大切にしている、もしくは大切にしたい種

出典：「大切にしたい奈良県の野生動植物 脊椎動物編」(平成18年、奈良県)

「大切にしたい奈良県の野生動植物 植物・昆虫類編」(平成20年、奈良県)

4-3-5. 人と自然との触れ合いの活動の場

事業計画地周辺における主な人と自然との触れ合いの活動の場の分布状況は、図4-3.6に示すとおりである。

大阪府が府政100周年記念事業として、大阪の東の端に位置する金剛生駒紀泉国定公園の主要な地点に整備した府民の森があり、事業計画地の周辺には、くろんど園地、ほしだ園地、緑の文化園むろいけ園地がある。他に、交野市立いわふね自然の森スポーツ・文化センター「星の里いわふね」、四條畷市立野外活動センター、自然公園である「ふれあいの森」がある。また、大阪府は、四條畷市下田原地区において、生物生息環境の保全や身近な自然とふれあえるレクリエーション空間を創出することを目的として、ビオトープを堂尾池・薬尾寺池に整備している。

事業計画地の近傍には、「ほしだ園地」から「新磐船トンネル」の北側及び「きさいちカントリークラブ」を経て「くろんど園地」を結ぶハイキングコースがある。また、北は大阪府能勢町の府民牧場から、南は泉南市にある府民の森ほりご園地までの「おおさか環状自然歩道」があり、この自然歩道と多くのハイキングコースがつながっている。

4-3-6. 自然景観

事業計画地は金剛生駒紀泉国定公園にあり、優れた山脈景観と、その裾野に点在する社寺、旧跡などの価値が高く評価され、昭和33年に「金剛生駒国定公園」として指定されて以来、多くの人々に親しまれているが、平成8年10月、豊かな自然・歴史・文化資源を有する和泉葛城山系（河内長野市南西部～泉南市堀河地区）が金剛生駒国定公園に編入され、名称も「金剛生駒紀泉国定公園」に変更された。

昭和61～62年度に、環境省は自然環境保全上重要な要素である自然景観について、全国的視野で把握するため、視対象である自然景観の基盤（骨格）を成す地形、地質及び自然景観として認識される自然現象に着目して、調査対象を以下の観点から選定して、それらの位置及び特性等を調査した。

- ・視対象である自然景観の基盤をなす地形、地質及び自然景観として認識される自然現象であること
- ・通常、人間が視覚的に自然景観として認識できるスケールであること
- ・視覚に訴える特徴的なものであること
- ・人工的に造成された物ではないこと
- ・季節的な自然現象ではないこと

この調査における事業計画地周辺の自然景観資源は表4-3.3に示すとおりである。

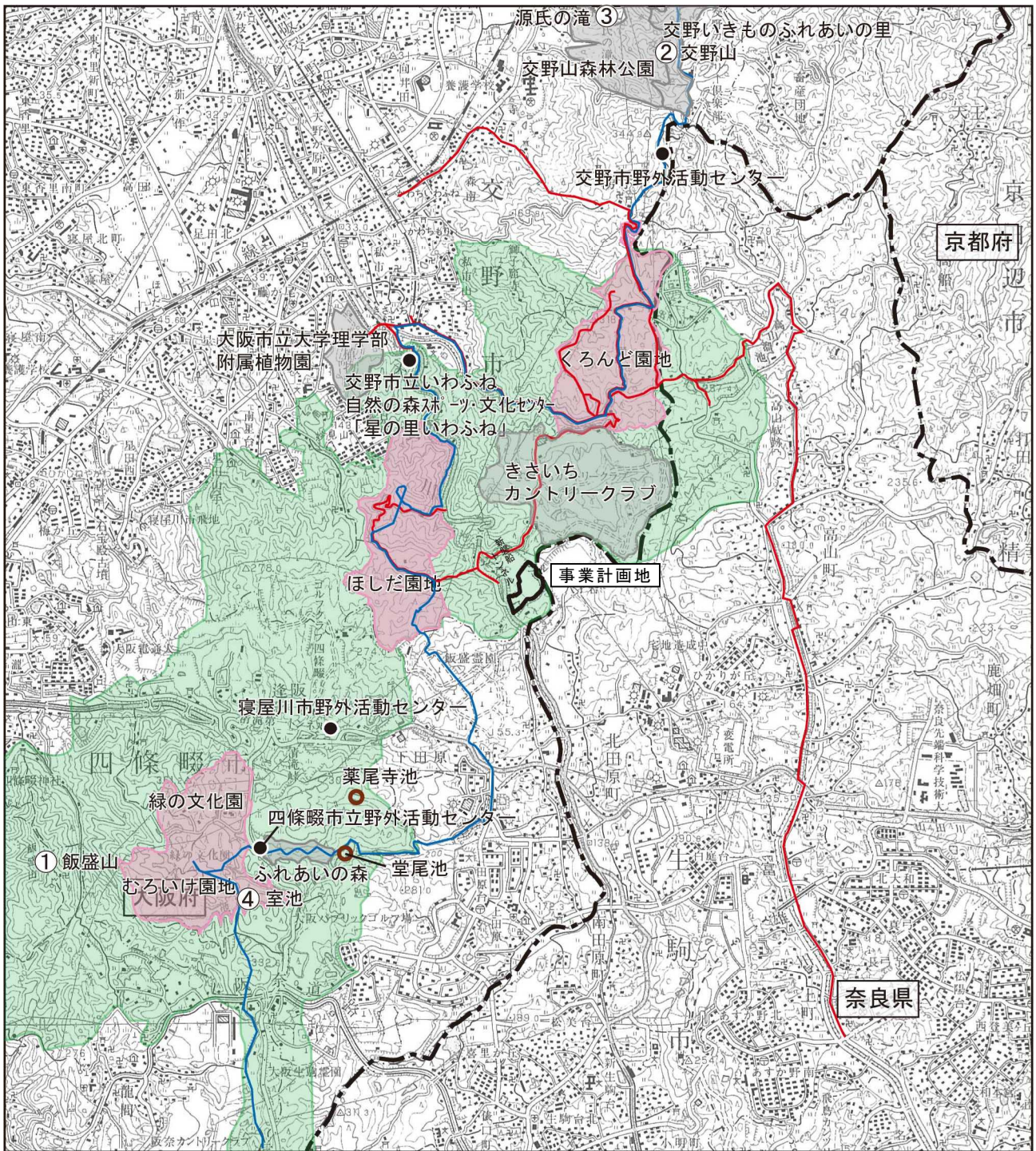
表4-3.3 事業計画地周辺の自然景観資源

番号	名称	類型	自然景観資源名
①	飯盛山	山地（非火山性）景観	非火山性孤峰
②	交野山	山地（非火山性）景観	非火山性孤峰
③	源氏の滝	河川景観	滝
④	室池	湖沼景観	湖沼

注）表中の番号は図4-3.6に対応している。

出典：「日本の自然景観（近畿版Ⅰ、Ⅱ）」（平成元年、環境庁）

また、生駒市高山町の一部は、「高山溜池を中心とした北部及び南部の地区の森林、丘陵、溜池により形成される良好な景観の保全」を旨として、奈良県自然環境保全条例に基づく景観保全地区（高山溜池景観保全地区）に指定されている。



凡 例 事業計画地 府県境

金剛生駒紀泉国定公園 府民の森

おおさか環状自然歩道 ①~④ 自然景観資源 (番号は表4-3-3に対応している)

その他の主なハイキングコース

ビオトープ整備箇所

出典: 「金剛生駒紀泉国定公園区域及び公園計画図(保護計画)」(奈良県ホームページ)
「市民のしおり かたの」(交野市)
「緑の文化園」(緑の文化園管理運営協議会)
「市民の手引き 四條畷」(四條畷市)
「京阪沿線ウォーキングまっぷ」(京阪電気鉄道株式会社)
「いこいこまっぷ」(生駒山系広域利用促進協議会) 等より作成

1:50,000

0 1 2km

図4-3.6 事業計画地周辺の人と自然との触れ合いの活動の場及び自然景観資源